

意見に対する市の対応方針

令和8年度 第2回 総合計画審議会

項目 等	審議会での意見	意見に対する市の対応方針
1. 「みんなでできること」を最後に配置し、目指す姿を踏まえて、市民の具体的な行動につなげる 基本計画	「みんなでできること」は、市民が計画に関わり、具体的な行動につなげるための重要な項目である。そのため、「将来像・市民の実感」や「分野の目標」を示した後、最後に「みんなでできること」を配置してはどうか。目指す姿を確認した上で、その実現に向けて自分たちに何ができるかを考える流れとすることで、市民の行動につながりやすくなるのではないか。	ご意見を踏まえ、「みんなでできること」を各政策分野の最後に配置するようレイアウトを変更します。これにより、将来像の実現に向けて、市民の皆様にもできることを考えていただく流れとなるよう構成を整理します。
2. 「将来像・市民の実感」は、計画実現後の姿が分かるよう、将来の姿を表す表現に統一 基本計画	「将来像・市民の実感」は、総合計画を実現したときに、市民がどのような姿や変化を実感できるのかを示すものと考えられる。 現在の記載では、「〇〇になった」といった実現後の状態と、「〇〇になる」「〇〇と感じる」といった将来の姿を表す表現が混在しているため、「〇〇になる」など、将来の姿を表す形に統一してはどうか。	ご意見を踏まえ、「市民の実感」については、将来像が実現したときの姿が伝わるよう、将来の姿を表す表現に統一します。
3. 「みんなでできること」に具体的な数値を示す 基本計画	「みんなでできること」について、可能なものは具体的な数値や目安を示すことで、目指すところがより分かりやすくなり、市民の具体的な行動につながるのではないか。	数値を設定すると、実質的には新たな成果指標となり、現状値を把握するための調査や、計画期間終了時に達成状況を検証する仕組みも必要になります。また、既に設定している成果指標との役割の違いも分かりにくくなると考えられます。そのため、「目標」は計画の達成状況を測るもの、「みんなでできること」は市民の皆様に具体的な行動を呼びかけるものとして、役割を分けて整理したいと考えています。 一方で、市民の具体的な行動につなげるというご意見の趣旨は重要だと考えています。そのため、数値を設定するのではなく、「何をすればよいのか」がより具体的にイメージできるよう、各分野の「みんなでできること」の記載内容を工夫していきたいと考えています。
4. 「将来像・市民の実感」が、計画最終年度の令和13年度に目指す姿であることを明確に 基本計画	イラストや図、色を活用したレイアウトや「みんなでできること」の設定により、市民にとって分かりやすく、主体的な関わりを促す構成になっていると感じる。 その上で、「将来像・市民の実感」については、計画期間の最終年度である令和13年度に目指す姿であることを明確に示してはどうか。現状では、いつの時点の将来像なのか、読む人によって受け止め方が異なる可能性がある。	ご意見を踏まえ、「将来像・市民の実感」が計画期間の最終年度である令和13年度に目指す姿であることが明確に伝わるよう、見出しを「令和13年度に目指す姿」に修正しました。

項目 等	審議会での意見	意見に対する市の対応方針
5. 人物イラストは、性別と特定の色を固定的に結び付けず、 多様性に配慮した配色 基本計画	人物のイラストについて、男性は青、女性は赤といったように、性別と特定の色を固定的に結び付けた表現に見える。こうした表現は見る人の意識にも影響を与える可能性があるため、性別によって色を固定することのないよう、配色に配慮してはどうか。	ご意見を踏まえ、性別による固定的なイメージとならないよう、配色や表現に配慮してイラストを作成します。
6. 実際に地域で活動する市民の 取組や暮らし、声を紹介 し、計画が目指す将来の姿を具体的に伝える 基本計画	今回の総合計画での対応は難しいかもしれないが、市民にとって計画をより身近で説得力のあるものとするため、実際に地域で活動する市民の取組や暮らし、声などを具体的に紹介してはどうか。 例えば、新たに農業を始めた方の取組や暮らしぶりなどをモデルケースとして紹介することで、計画が目指す将来の姿を具体的にイメージしやすくなると考える。今回は難しいとしても、今後の総合計画では、こうした市民の姿や声を計画の中で紹介することを検討していただきたい。	ご意見を踏まえ、市民にとってより身近で説得力のある計画となるよう、専門部会に参加した方々の地域での取組や村上市への思いなどを紹介する「MURAKAMI VOICE（地域で活動する人の声）」の実施を検討します。総合計画への掲載や広報・ホームページ等による紹介など、具体的な実施方法については、今後検討します。 なお、現時点では、専門部会の参加者への協力依頼は行っておりません。本日、このような対応方針についてご意見をいただいた上で、ご協力いただける方に依頼したいと考えています。そのため、協力いただける方の状況によっては、掲載・実施できない場合もあります。
7. 「 目標 」→「 チャレンジ 」→「 将来像 」の流れとし、市民にとって分かりやすい構成 基本計画	まず達成すべき「目標」があり、その実現に向けて「チャレンジ」に取り組み、その結果として「将来像」につながるという流れの方が、自然で分かりやすいのではないかと。 「目標」→「チャレンジ」→「将来像」というストーリーを明確にすることで、市民にとっても計画の流れを視覚的に理解しやすくなると考える。どのような構成がより市民にとって分かりやすく、伝わりやすいものとなるかという観点から検討してはどうか。	ご意見を踏まえ、現在のレイアウトを基本としながら、計画の流れや各項目の関係がより分かりやすく伝わるよう、各項目の表題に「将来に向けた」「令和13年度に目指す姿」「将来の」といった表現を加え、将来の目指す姿に向けた取組であることを明確にしました。
8. 若い世代にも分かりやすい構成 とし、探究学習や地域学習などで活用できる計画 基本計画	資料は、若い世代にも分かりやすい内容・構成となっており、中学校や高校の探究学習や地域学習などでも活用できるのではないかと。 総合計画は中学生や高校生にとって難しいイメージがあるが、教材や副教材としても活用できるような分かりやすさを意識することで、若い世代が計画に触れ、自分たちの地域やまちづくりについて考えるきっかけにもなると考える。	中学生や高校生の探究学習や地域学習などにも活用していただけるよう、分かりやすく親しみやすい計画づくりを進めます。
9. 「 人口減少を前提 」と する表現を見直し 、地域の維持・成長への前向きな姿勢が伝わる表現 総合戦略	「人口減少を前提としながら地域産業を成長させる」という表現については、人口減少を受け入れ、諦めているような印象を市民に与える可能性があるのではないかと。人口減少が避けられない状況にあっても、その抑制に取り組みながら、地域の活力や産業を維持・成長させていくという、市の前向きな姿勢が伝わる表現としてはどうか。 また、人口減少の中で地域産業の成長を目指すのであれば、どのような取組によって実現していくのか、本市として具体的なモデルやイメージを整理し、説得力を持って示すことも必要ではないかと。	ご意見を踏まえ、「人口減少を前提としながら」という表現を見直し、人口減少の抑制に取り組むとともに、人口減少の中にあっても地域の活力を維持・向上させていくという、本市の前向きな姿勢が伝わる表現に修正しました。

項目 等	審議会での意見	意見に対する市の対応方針
	今後も人口減少が続くことが見込まれている中では、人口減少そのものは避けられない部分があることを踏まえ、その中で地域の活力をどのように維持し、持続可能な地域をつくっていくかを考えることが現実的ではないか。 人口減少への対応と併せて、人口が減少する中でも地域の活力や暮らしを維持していくという視点も重要ではないか。 「人口減少を前提としながら」という表現は、人口減少を受け入れてしまったような印象を与える可能性があるため、より前向きな表現としてはどうか。 例えば、「人口減少の局面にあっても地域を維持する」といった、人口減少の中でも地域の活力や暮らしを維持し、持続可能な地域をつくっていくという市の意思が伝わる表現を検討してはどうか。	
10. 国内外の先進事例を参考に、本市が目指す具体的なモデルや将来の可能性を整理 総合戦略	人口減少が進む中でも地域の活力や産業の維持・成長を目指すのであれば、その実現に向けた具体的なモデルを持つことが必要ではないか。 国内で人口減少下でも産業振興に取り組んでいる地域や、海外の同規模の地域などの事例も参考にしながら、本市としてどのような取組により地域の活力や産業を維持・成長させていくのか、具体的な方向性を整理してはどうか。 人口減少が進む中でも地域や産業を維持している国内外の先進事例について、計画への掲載の有無にかかわらず、市として把握しておくことが必要ではないか。 農業、商工業、福祉など各分野において参考となる事例を整理し、本市の施策や取組を検討する際に生かしていくことが重要ではないか。 戦略や計画を策定するに当たっては、「本市がどのような姿を目指すのか」を市民に具体的に説明できるモデルやイメージを持つておくことが必要ではないか。 他地域の事例なども踏まえ、「本市にもこうした可能性がある」と具体的に示せるモデルや将来の可能性を整理した上で、戦略や計画を策定することが重要ではないか。 農業については、海外には都市部から農村部への人口移動が見られる事例もあることから、「農村だから人口減少は避けられない」と捉えるだけでなく、異なる可能性があることを示すことも重要ではないか。 こうした国内外の事例も参考にしながら、本市における農業・農村地域の将来の可能性を検討してはどうか。	ご意見を踏まえ、人口減少が進む中でも地域の活力や産業を維持・成長させている国内外の先進事例について、農業、商工業、福祉など各分野において情報収集・研究を行い、本市の地域特性や課題に応じて、今後の施策や事業の検討に生かしていきます。 総合戦略では、特定の地域の事例をモデルとして位置付けるのではなく、本市が有する地域資源を生かし、付加価値の向上や新たな事業の創出、地域外からの需要・所得の獲得などを通じて、地域経済の好循環を生み出すことを基本的な方向として示しています。今後、具体的な施策や事業を検討する中で、先進事例も参考としながら、本市に適した取組を検討していきます。

項目 等	審議会での意見	意見に対する市の対応方針
11. 本市に必要な施策を基本とし、国の重点分野との関連を整理しながら、活用できる国の支援制度を選択してはどうか。 総合戦略	国の「地域未来戦略」では重点分野が示され、国の支援制度とも関連していることから、本市の総合戦略においても、国の方向性を踏まえた取組の位置付けを検討してはどうか。 特に、本市の取組と国の重点分野が合致するものについては、今後の支援制度の活用も見据え、計画の中で重点的に示すなど、記載に強弱をつけてはどうか。 国の「地域未来戦略」で示されている17の重点分野と、本市の総合戦略に位置付ける施策・取組との関連をどのように整理しているのか。 また、国の重点分野を本市の総合戦略にどのように反映していくのか、市の考え方を示していただきたい。 国の政策に合わせて本市の施策を考えるのではなく、まず本市として必要な施策や取組を考え、その実現に活用できる国の制度や支援策を選択するという視点が重要ではないか。 国の政策動向を踏まえつつも、それに左右されることなく、本市として目指す方向性や考え方を明確に持った上で、必要な制度を効果的に活用していくことが重要ではないか。	国の「地域未来戦略」では、地域産業の成長に向けた取組として、「戦略産業クラスター計画」「地域産業クラスター計画」「地場産業成長プラン」の3類型が示されています。戦略産業クラスター計画は、日本成長戦略の17の戦略分野に関連する大規模投資を起点とするものであり、一方、地場産業成長プランは、地域に根差した産業の成長を図る取組として位置付けられています。 本市としては、国の重点分野に合わせて施策を設定するのではなく、まず本市の地域特性や課題を踏まえて必要な施策・取組を位置付け、その実現に活用できる国の制度や支援策を効果的に活用していくことが重要と考えています。 その上で、地域未来戦略に基づく支援制度について、国の制度設計や支援内容を確認しながら、本市の産業振興に活用できる制度を検討するとともに、「地場産業成長プラン」についても、本市の地域資源や産業の強みを生かした策定の可能性を検討していきます。
12. 国の地域未来戦略の「2030年度」に、「令和12年度」を併記 総合戦略	「計画期間」の記載について、本計画の計画期間を和暦で表記していることから、国の地域未来戦略の「2030年度」についても、「2030年度（令和12年度）」と和暦を併記することで、分かりやすい表記としてはどうか。	ご意見を踏まえ、国の地域未来戦略の計画期間について、「2030年度（令和12年度）」と和暦を併記し、分かりやすい表記に修正しました。
13. 人と人とのつながりや支え合いを盛り込み、戦略全体で「つながり」を一貫したキーワード 総合戦略	「戦略を推進する上での基本的な考え方」について、目指す地域社会の姿に、人と人とのつながりや支え合いという要素を加えてはどうか。 戦略全体を通して「つながり」を大切にする考え方が示されていることから、基本的な考え方にもその視点を盛り込むことで、本市が目指す地域社会の姿や戦略全体の一貫性が、より分かりやすく伝わるのではないか。 戦略全体を通して、本市が大切にする考え方を一貫したキーワードとして示すことで、戦略としての説得力が高まるのではないか。 特に、「つながり」といった言葉を本市の戦略を象徴するキーワードとして位置付け、戦略全体に一貫して表してはどうか。	ご意見を踏まえ、「つながり」を戦略全体を通じて大切にする考え方として明確に位置付けました。また、人と人、地域と地域がつながり、互いに支え合いながら持続可能な地域をつくっていくという考え方が伝わるよう、「策定の趣旨」や「戦略を推進する上での基本的な考え方」等の記載を修正しました。

項目 等	審議会での意見	意見に対する市の対応方針
14. 「つながり」を、過去・現在・未来、人や地域、市内外との連携など多面的に捉え、その意味を具体的に示してはどうか 将来像	将来像では「つながり」と「挑戦」がキーワードとなっている。「つながり」については、人と人、地域と地域、世代や分野を超えた支え合いや連携という意味が示されているが、「過去から現在、そして未来へと続くつながり」という視点も加えてはどうか。 村上市は長い歴史を有し、中心市街地だけでなく、それぞれの地域に歴史や文化、人々の営みが受け継がれている。現在の村上市は、そうした積み重ねの上に成り立っていることから、人や地域などの横の「つながり」だけでなく、地域の歴史や営みを受け継ぎ、過去から現在、そして未来へつないでいくという時間軸の「つながり」も大切ではないか。 「過去からのつながり」という視点に関連して、村上市には温泉や海、歴史、文化など、長い歴史の中で育まれ、受け継がれてきた豊かな地域資源がある。市外から見ると多くの魅力を感じる一方で、市民にとっては身近にあるがゆえに、その価値や魅力に十分気付いていない部分もあるのではないか。現在の村上市が、これまでの歴史や文化、人々の営みの積み重ねの上に成り立っていることを認識し、自分たちの地域の価値を改めて認め、大切にしていこうという視点も重要である。 また、「つながり」は、市内だけにとどまるものではなく、市外・地域外とのつながりという視点も重要である。人口減少が進む中では、市だけですべての課題に対応するのではなく、周辺自治体をはじめ、市外のような主体と情報や課題を共有し、連携・協力して取り組んでいくことが必要になる。「つながり」には、市内の人や地域のつながりだけでなく、市外の自治体や様々な主体とつながり、ともに課題に取り組んでいくという視点も盛り込んではどうか。 将来像である「つながりと挑戦で、未来をつくるまち」は、市民だけでなく、市外や同じような課題を抱える地域に対しても、本市が目指す姿を伝える力のあるメッセージだと感じる。 その中の「つながり」については、過去から現在、未来へと続く「時間のつながり」、人と人との「人のつながり」、市内外を含めた「地域のつながり」など、いくつかの視点からその意味を整理し、もう少し具体的に示してはどうか。そうすることで、将来像に込めた「つながり」の意味が、市民にもより分かりやすく伝わるのではないか。 また、地震や豪雨などの災害時には、地域の孤立や情報の途絶が大きな課題となる。市域が広く、多様な地域を有する村上市にとって、「つながり」は、人や地域の交流・連携だけでなく、市民の暮らしや安全を守るという面でも重要な意味を持つ。 このように、「つながり」を様々な角度から掘り下げ、その意味を具体的に示すことで、市民だけでなく、市外に対しても、本市が目指すまちづくりの姿をより明確に発信できるのではないか。 「つながり」は、関係人口の創出・拡大にもつながる考え方だと思う。将来像として「つながりと挑戦で、未来をつくるまち村上」を掲げるのであれば、「村上に来れば、人や地域とつながることができる」こと自体を本市の魅力の一つとして、市内外に発信していく視点も大切ではないか。	ご意見を踏まえ、「つながり」を、人や地域のつながりだけでなく、過去から現在、未来へと続く「時のつながり」、世代や分野を超えて支え合う「人のつながり」、市内外の人や地域と連携する「地域のつながり」として整理し、その意味を具体的に示しました。 また、これまで受け継いできた歴史や文化、自然、人々の営みなどを本市の財産として捉え、それらを未来へつないでいく考え方が伝わるよう、文章及びイラストを修正しました。

項目 等	審議会での意見	意見に対する市の対応方針
15. 「笑顔」から「つながり・挑戦」へ、これまでの計画の考え方をどのように 継承・発展 させたのかを明確にしてはどうか。 将来像	「進化のストーリー」にある「あふれる笑顔」について、どのような考え方で位置付けているのかが分かりにくい。「あふれる笑顔」がこれまでの総合計画で大切にしてきた考え方であり、それを礎として第4次総合計画へ引き継いでいくという意図であれば、これまでの計画からの継承・進化が分かるよう、その考え方を説明してはどうか。 「笑顔」と、新たに掲げる「つながり・挑戦」との関係が、現状では分かりにくい。これまでの計画を単に上書きするのではなく、「笑顔」から「つながり・挑戦」へ、どのように継承・発展してきたのかという考え方を整理し、そのつながりが分かるようにしてはどうか。	ご意見を踏まえ、第3次総合計画で大切にしてきた「笑顔」への想いを第4次総合計画へ受け継ぎ、その笑顔を支えてきた「つながり」をさらに広げ、つながりを力として新たな「挑戦」へつなげていくという、将来像の継承・進化の考え方を明確にしました。 また、これまで受け継がれてきた村上の財産から、「あふれる笑顔のまち村上」を経て、「つながりと挑戦で、未来をつくるまち村上」へとつながる流れが視覚的にも伝わるよう、イラストを修正しました。
16. 第3次から第4次へ、基本理念が どのように深化したのかを具体的に 基本理念	第3次総合計画と同じ「創る」「育む」「広げる」を基本理念として引き継ぐことはよいが、第4次総合計画でその意味を「深化」させるのであれば、第3次から具体的に何が変わり、どのように考え方が深まったのかが分かるようにしてはどうか。 現在の「つながりや共創、新たな価値を生み出す視点を加える」という説明だけではやや抽象的であるため、第3次から第4次への継承と深化が具体的に伝わるよう、表現を工夫していただきたい。	ご意見を踏まえ、第3次総合計画から第4次総合計画へ基本理念をどのように継承し、その意味を深化させたのかが具体的に伝わるよう、説明を追加しました。 第3次総合計画では「何を創り、育み、広げるか」という考え方を基本としてきたことを示した上で、第4次総合計画では、その基本理念を引き継ぎながら、「未来へどうつなげるか」という視点まで意味を深めたことを、文章と図により分かりやすく示しました。
17. 基本目標4の「 郷育 」は、若い世代にも伝わるよう、 ルビを振るなど読み方を分かりやすく 基本目標	基本目標4「人が輝く郷育のまち」の「郷育」については、「きょういく」と読むなど、市民にとって読み方が分かりにくい可能性がある。特に、中学生など若い世代の活用も想定するのであれば、誰にでも分かりやすい表現とすることが大切ではないか。 「郷育」という言葉に市としての思いや意図があるのであれば、言葉自体は残しつつ、ルビを振るなど、読み方が分かるよう工夫してはどうか。	ご意見を踏まえ、基本目標4の「郷育」について、本市がこれまで大切にしてきた「郷育」という言葉は継承しつつ、子どもをはじめ、誰にでも読み方が分かりやすく伝わるよう、「郷育（さといく）」とルビを付けて表記することとしました。
18. 「 広報広聴 」に、市外への 魅力発信 や地域外との つながり・関係づくり の視点 基本目標	「広報広聴」については、行政と市民との双方向の対話だけでなく、村上市の魅力を市外へ発信し、地域外の人とのつながりや関係を広げていく視点も重要ではないか。 市民への情報発信に加え、市外への情報発信や関係づくりという広報の役割も含めた表現となるよう、検討してはどうか。	ご意見を踏まえ、「広報広聴」について、市民との対話だけでなく、市外への魅力発信や地域外の人々とのつながりの視点を加え、市内外の人々との双方向の対話と魅力発信を通じて、ともに歩むまちを目指す表現に修正しました。
19. 地勢図と説明文で 異なる表記を統一 し、読み手に分かりやすく 土地利用構想	「まちの未来の地勢図」について、地図上の「市内公共交通軸」と説明文の「生活ネットワーク」、また、地図上の「広域道路軸」と説明文の「高速移動軸」は、それぞれ同じものを示しているのであれば、読み手に誤解が生じないように、表記を統一してはどうか。	ご意見を踏まえ、地図と説明文の表記を統一しました。「高速移動軸」は「広域道路軸」に統一しました。また、「市内公共交通軸」については、公共交通だけでなく、デジタルなども活用して地域間のつながりを確保し、暮らしを支える考え方をより適切に表すため、「生活ネットワーク」に統一しました。

項目 等	審議会での意見	意見に対する市の対応方針
20. 各地域の暮らしの維持と必要なサービスへのアクセス確保が伝わるよう、土地利用構想の文章や図を工夫 土地利用構想	土地利用構想において、人口減少を踏まえた「集約」と「生活維持」の両立を目指す考え方は重要である。 一方、「まちの未来の地勢図」では、中心拠点や地域拠点、北部生活圏とそれらを結ぶ構成が中心となっているため、それ以外の地域に暮らす市民が、構想から取り残されているように受け取られる可能性はないか。 中心部や拠点だけでなく、市域全体の暮らしをどのように維持していくのか、その考え方が市民に伝わるよう、土地利用構想の文章や図の表現を工夫してはどうか。 村上市においても、市内各地域のバランスに配慮しながら、地域全体の暮らしや活力を維持していくという視点が重要ではないか。 その観点から、「まちの未来の地勢図」に示されている拠点や矢印だけで、市内各地域のつながりや暮らしを支えていく考え方が十分に表現できているのか。地域間のバランスをどのように考えているのか、市としての考え方を明確にしてはどうか。 土地利用構想について、中心部への機能の集約だけでなく、各地域の暮らしを維持し、必要なサービスへのアクセスを確保していくという考え方が伝わるよう、文章に具体的に示してはどうか。 特に、周辺地域に暮らす市民が取り残されとの印象を与えないよう、市域全体の暮らしを支えていくという市の考え方を明確に示すことが重要ではないか。 「まちの未来の地勢図」について、産業や交流などの方向性を示す矢印だけでなく、市民の日常生活を支え、各地域を結ぶ灰色の矢印も重要である。 中心部や拠点と各地域をつなぎ、市域全体の暮らしを支えるネットワークの重要性がより伝わるよう、矢印を目立たせるなど、図の表現を工夫してはどうか。	ご意見を踏まえ、「集約」と「生活維持」を両立し、市内のどの地域に住んでいても安心して暮らし続けられるという考え方を明確にしました。また、中心拠点、地域拠点、北部生活圏が、それぞれの周辺地域を含めた市域全体の暮らしを支えるとともに、道路や公共交通、デジタルなどを活用して地域間のつながりを確保し、必要なサービスへアクセスできる考え方が伝わるよう、文章及び図を修正しました。
21. 市域全体の暮らしを支える考え方を明確にし、周辺地域が取り残されとの誤解を招かない表現 土地利用構想	土地利用構想における「集約」と「生活維持」の両立は重要であるが、現在の表現では、「生活維持」として何を維持していくのかが分かりにくく、道路や交通ネットワークの維持だけを指しているようにも受け取れる。 中心部への機能の集約だけでなく、市内のどの地域に住んでいても暮らしを維持していくという考え方が伝わるよう、「生活維持」の意味を具体的に示してはどうか。 また、周辺地域に暮らす市民が取り残されとの印象を持つことのないよう、市域全体の暮らしを支えていくという市の考え方を明確に示すことが重要ではないか。 土地利用構想における「生活維持」については、道路や公共交通などの物理的なネットワークだけでなく、情報通信基盤やデジタル技術も活用しながら、市内のどこに住んでいても必要なサービスを受け、暮らしを維持できるという視点を盛り込んではどうか。 土地利用という枠組みにとらわれず、中心部だけでなく周辺地域を含めた市域全体の暮らしを支えていくという市の考え方が伝わるよう、「生活維持」の意味や表現を工夫してはどうか。	ご意見を踏まえ、朝日・山北地区を含む各地域について、それぞれの地域特性や生活圏を踏まえながら、必要なサービスへのアクセスを確保し、安心して暮らし続けられる環境を維持していく考え方を明確にしました。あわせて、拠点や地域間のつながりを確保し、市域全体で暮らしを支えていく考え方が伝わるよう、文章及び図を修正しました。

項目 等	審議会での意見	意見に対する市の対応方針
22. 「つなぐ」が新たな価値を生み出す考え方を前面に出し、地域や人をつなぐ基盤を幅広く捉える 土地利用構想	土地利用構想について、「『つなぐ』が新たな価値を生み出す」という考え方を、より前面に打ち出してはどうか。「将来の土地利用の方向性」という表現よりも、本市が目指す姿を分かりやすく伝えるメッセージになるのではないかと。また、地勢図を先に示すなど、構成についても工夫してはどうか。 「つなぐ」については、交通軸で地域を結ぶだけでなく、中心拠点や地域拠点それぞれの機能を充実させ、それらがつながることで、人や地域の交流、新たな価値が生まれるという考え方を示してはどうか。 さらに、道路や公共交通などの物理的なつながりだけでなく、情報通信基盤やデジタル技術なども含め、地域や人をつなぐ基盤を幅広く捉え、「つなぐ」ことで新たな価値を生み出していくというメッセージを明確に示してはどうか。 地域の将来の姿を示すという観点から、道路や公共交通などの物理的なインフラだけでなく、光ファイバーや5Gなどの情報通信基盤も含め、地域や人をつなぐ様々な基盤を幅広く捉えてはどうか。 また、従来の土地利用構想の枠組みにとらわれることなく、本市が目指す将来の姿を実現するために必要な考え方を、基本構想に柔軟に盛り込んではどうかと。	ご意見を踏まえ、道路や公共交通などの交通基盤だけでなく、デジタルも含め、人や地域、産業、サービスなどを幅広く「つなぐ」ことを土地利用構想の重要な考え方として明確にしました。また、高速道路を生かして地域の様々な取組を結び、人・地域・産業のつながりを広げることで、新たな交流や価値を生み出し、地域の可能性を広げていく考え方を文章及び図に反映しました。
23. 人口減少を受け入れる印象を避け、持続可能な地域を目指す前向きな姿勢が伝わる表現 重点視点 — 横断的視点 —	「人口減少時代を乗り越える」や「人口減少への適応」という考え方はよいが、「人口減少を前提に」という表現は、行政が人口減少を最初から受け入れているような印象を市民に与える可能性があるのではないかと。 人口減少への対応は行政として取り組むべき重要な課題であることから、人口減少を抑制する取組を進めながら、その影響にも適応していくという、市の前向きな姿勢が伝わる表現にしてはどうか。 人口減少という現実を踏まえつつも、「人口減少の中でも持続していける」「人口減少に負けない」といった、前向きな姿勢が伝わる表現としてはどうか。 行政が発信する言葉は市民の受け止め方にも影響することから、人口減少に対応しながら、持続可能な地域をつくっていくという市の意思が伝わるよう、表現を工夫していただきたい。	ご意見を踏まえ、「人口減少を前提に」という表現を見直し、人口減少の抑制に取り組むとともに、社会環境の変化に的確に対応し、市民が安心して暮らし続け、地域の活力を未来へつないでいくという前向きな姿勢が伝わる表現に修正しました。
24. 男女共同参画・男女平等を、特定分野に限らず、計画全体を横断的視点として位置付ける 重点視点 — 横断的視点 —	男女共同参画や男女平等は、特定の政策分野だけに関わるものではなく、あらゆる分野に横断的に関わる重要な視点ではないかと。 そのため、基本目標5「多様性が広がるまち」の一分野として位置付けるだけでなく、「将来に備える重点視点」と同様に、計画全体を横断する視点として位置付けることも検討してはどうか。	ご意見を踏まえ、男女共同参画計画の考え方も踏まえながら、「男女がともに自分らしく参画・活躍できる環境づくり」を重点視点的「共創の連携」に位置付け、特定の政策分野に限らず、計画全体を横断する視点として反映しました。